

福井県議会議員・山本建の **けんちゃん** 奮闘記



6月議会編

●在来線駅の活性化策について

北陸新幹線敦賀開業に伴う在来線駅の活性化策についてお伺いします。
武生駅や鯖江駅などの**新幹線が来ない在来線駅やその周辺地域の活性化策**についてどのようにお考えですか？



初めての
一般質問に
緊張中

ひとつには列車を使う人は減らさない。その駅を使う人を減らさないということ。そのためには、**増便ですとか快速列車を走らせる、新駅の設置やパーク＆ライドの拡大など、使われる方の観点から利便性を上げていく**ということに努めてまいりたいと思っています。

<知事>

9月議会編

●並行在来線の利便性確保について

北陸新幹線敦賀開業時に、JRから経営分離される北陸本線の県内区間は快速列車が福井駅・敦賀駅間で1本しか運行されていないことから、増便、快速運行は県民の利便性確保として必要なことだと考えますが、実現に向けた決意をお伺いします。

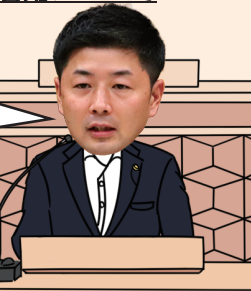


新たな利用客を増やしていく、そして運賃増加を図るという上で重要ですので**最優先で取り組んでいくべき事項**と認識しています。

<地域戦略部長>

●県立高校の自転車通学時のヘルメット着用について

中学生は自転車通学で着用が義務づけられている。しかしながら高校生に関してはヘルメットを着用して自転車に乗っている姿はほとんど見受けられない。**将来を担う若者の不測の事態を防ぐためにも高校生も自転車通学時のヘルメット着用の義務化が必要**ではないですか？



自転車通学生が約6割おりますので、県教委としても非常に重要であると認識しており通学時の着用を推奨しています。各学校で**自転車通学許可の条件に加えていただくなど、着用を広める方向で我々としても検討**してまいります。

<教育長(当時)>

●子どもの遊び場について

近年の異常気象もあって、**夏は猛暑、冬は雪、梅雨の時期や台風の頻発で雨が多いなど外の公園で遊べる期間が少なく全天候型で遊べる場が求められております**。「1市町1遊び場づくり」のような目標を掲げて、県と市町が一体となり全天候型の遊び場整備に取り組んではいかがでしょうか？



各市町の**天候に関わらず、遊び場として利用できるような施設をリストアップして県民の皆さんに周知**すること、足らざるものについては**市町とともに子どもの遊び場整備**について考えてまいります。

<健康福祉部長>



6月定例会
一般質問
◀こちらから

質疑の様子は Youtube にて、公開されております。

福井県議会録画中継



9月定例会
一般質問
▶こちらから



6月と9月に開催された定例会一般質問の一部をお伝えしました。裏面に、より詳しい答弁内容を記載しておりますので是非御覧ください。

鯖江を元気に！福井を元気に！福井県議会で奮闘中！！

北陸新幹線金沢・敦賀間の開業に伴う特急の存続問題

<山本建>

北陸新幹線は、県民が一体となって待ち望み、開業後を見据えたまちづくりを福井県全体で取り組んでいかなければならない。しかし、フリーゲージトレインが断念されたことで全線開業までの期間、地域によっては利便性が低下してしまい、新幹線が開業したことで逆に不便になってしまうことはあってはならない。何としても全線開通までの期間、県民の利便性を損なわずに確保していく必要がある。特急存続若しくはそれと同等のフリーゲージトレインに代わる利便性確保についての知事の意気込みを尋ねる。

<知事>

敦賀開業後は、敦賀駅において新幹線と特急列車との乗り継ぎが生じるという現実があり、日頃から国やJRに対して、しらすぎ、サンダーバードの便数を確保し、乗り継ぎ時間をできるだけ短時間でできるようにお願いしている。その上で元々フリーゲージトレインというのは、国が計画をした前提があるので、国土交通大臣や自民党の三役とお会いした時にもこれに替わるものについてぜひ考えていただきたいと特急の存続も含めて求めている。また特急の車両確保乗務員確保などのコストの問題もあり、JRとの話し合いも欠かせないわけで、これからも協議を行う。沿線の市や町とも一緒に県民にとってより良い解決ができるように全力を傾けてまいる。



▲北陸新幹線

嶺北忠霊塔について

<山本建>

鯖江市にある嶺北忠霊塔は、昭和16年に建設され、先の大戦で尊い命を犠牲にされた嶺北一円の戦没者の御英霊の御遺骨が25000柱以上、一人ひとり骨壺に納められ納骨されている。戦後から74年が経過した現在でも、関係者のご尽力により、きちんと収められているが、老朽化が顕著に表れている。現在、福井県遺族会連合会が管理をされており、英霊顕彰奉賛会で寄付を募り広大な敷地の樹木剪定などの維持をされているが、塔本体の修繕は規模的に難しい。この忠霊塔の修繕について、県としても真剣に問題として捉え、遺族会と共にどのように進めて行くべきか検討し早急な対応策を取る必要があると考える。

<健康福祉部長>

嶺北忠霊塔は非常に重要な場所で、あの荘厳な雰囲気の中で県民の皆さんに先の大戦で亡くなられた方のこと、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて感じていただく場所として維持をしていく必要がある。特に維持管理についてはご遺族の高齢化や遺族会会員の減少により負担が増していることで、県としてもお金をもって任せるのではなく、県が直執行という形で草刈りなどの周辺整備をしている状況です。維持管理をどうするか遺族会連合会の中の専門委員会で議論が少しずつ進んでいると伺っておりその内容についてしっかりお聞きをしていきたい。忠霊塔の修繕につきましてはそれなりの劣化が進んでいるということは十分に承知しているので、検討状況をまずよくお聞きして遺族会の皆様、それからご遺族の皆さまのお気持ちをしっかり受け止めた中でどのような対応ができるか検討を進めてまいる。

●嶺北忠霊塔について知事の認識と想い●

今年の戦没者の追悼式前に嶺北忠霊塔へ参り参拝させていただいた。本当に遺族会の方中心にきちっと管理をしていただいております。本当に多くの方が訪れて参拝をされておられました。その姿を見まして本当に第2次世界大戦はじめ、いろんな戦争に赴かれて、志半ばで亡くなられた家族や故郷を思いながら亡くなられた方の無念を思いつつ、その方々が守っていただいたこの平和のもとに私たちの今の繁栄がある、この幸福度日本一の福井県があるなという思いを改めて強く感じた。戦争の悲惨な経験、平和の尊さ、こういったものは長く次の世代へとつなげていかなければならないと考えている。嶺北忠霊塔についても長く守っていかなければいけない、そういうところだというふうを考えている。



▲嶺北忠霊塔 全景

3歳児健康診査における視力検査について

<山本建>

子供の目の機能は生まれてから発達を続け、6歳までにはほぼ完成するが、3歳児健康診査において遠視や近視、乱視といった強い屈折異常や斜視が見逃された場合に、治療が遅れ、十分な視力が得られないとの指摘されている。3歳児健康診査での視力検査は基本的に各家庭でチェックすることとなっているが、目の見えにくさは小さい子供が自覚するのは難しい。県内では17市町中鯖江市など8つの自治体で専用の医療検査機器を用いて視力検査を実施しており実際に早期発見、治療に繋がっている。3歳児健康診査時の視力検査を家庭の責任にするのではなく検査会場において専用の機器で全受診児がしっかりとチェックできるよう県として全市町に助言するべきと考え所見を伺う。

<健康福祉部長>

3歳児健康診査における視力検査は、国の通知に基づくやり方で事前に家庭で適切に実施することができなかった場合に健診会場で再検査をする。この再検査に機器を用いることは、今のところ義務付けられていないが、県内でも機器を導入する市町が出て参りまして、関心も高まっていることから、県と医師会で協力を市町職員対象の研修会や会議などにおいて、さきに導入した市町からの効果等の情報提供の場を設けております。県としては、引き続き医師会の協力を得ながら、市町が課題を持ち寄る場所を設けて情報交換を続けてまいる。

福井鉄道福武線について

<山本建>

現在、福井市、鯖江市、越前市を沿線とする福井鉄道福武線は、通勤、通学を始め県民の移動手段として欠かせない交通インフラであり、福井駅への延伸や田原町駅における相互乗り入れなど、さらに利便性が向上している。経営は民間企業としてしっかりととなされており、設備更新や維持修繕は国、県、沿線3市が支援することによって行政と事業者が手を取り合っており県民の交通インフラを支えている。行政支援スキームの次の見直し時期となる令和5年度からは北陸新幹線敦賀開業に伴い三セク会社の運行開始と同時期となることから、沿線市町の負担増は避けられない。県民の交通インフラとして重要な役割を担っているこの福武線を維持していくには、早い段階から県が中心となって、沿線市町と事業者を交えた協議を進めて行く必要があるが、福武線の行政支援についてのお考えと福武線の在り方について、知事の所見を尋ねる。

<知事>

福井鉄道について、沿線に高校や大学、官公庁、企業がはりついており、駅の距離が1キロごとぐらいにある非常に地域密着というか、住民の皆さんの足として大切な地域の交通だと思っている。令和5年度以降の新しい計画について、これから4年度まで計画をきっちり仕上げていながら沿線の市や町とよく相談をして、大切な、県民の皆さんの足をしっかりと守るという方向でやらせていただきたい。その上で、並行在来線を含めて設備を改修するときの車両やレール、マクラギなどの調達、イベント切符などの企画を共同で行うことでえち鉄、在来線、福鉄もみんな潤うというコストの削減、増収策と一緒に考えて進めていきたい。



▲越前武生駅 FUKURAM(F1002)



▲福井駅周辺 FUKURAM(F1003)

●県政に関するご意見・ご要望はお気軽にご連絡下さい。

福井県議会議員山本建事務所

〒916-0004

福井県鯖江市糺町 25-12-2 糺野ビル 2階

TEL : 0778-52-2533 / FAX : 0778-52-2534

E-mail : info@yamamotoken.jp

